

公益財団法人日本交通公社がお薦めする 「一度は読みたい」 観光研究書&実務書100冊」

3

公益財団法人日本交通公社
旅の図書館副館長・主任研究員
(選定メンバー代表)

大隅 一志

「人はなぜ旅をするのか」「観光がもたらす社会、経済、文化、環境への影響や効果とは?」「観光地はどう発展し、どのような課題に向き合っているのか?」「観光の諸現象を研究したり、解決策を見つけていくためには、さまざまな領域からのアプローチが必要で、観光研究が、このように極めて学際的な特性を持ちながら、研究者や実務に関わる人が日常手にする研究書や実務書は、どうしても自身の専門テーマに偏りがちです。

「旅の図書館」には、観光に関わる研究書約8000冊(実務書を含む)の他、歴史や民俗学、自然科学などに関する図書、地域を知るための文献などが数多くあります。これらの図書は、過去から今日まで先人たちが記した観光についての知の集積とも言えます。少しでもこれらの図書や資料に触

れることは、自身の研究に広がりや奥行きを持たせ、研究へのアプローチや実践への新たなヒント(種)を与えてくれるのではないのでしょうか。

しかし、こうした観光に関する膨大な図書の全てに目を通すことは現実的に不可能です。もとより、専門分野以外にどのような観光に関する優れた図書があるのか、なかなか分からないのが実情です。

そこで、「旅の図書館」の移転・リニューアル開館を機に、図書館の蔵書から、観光の研究者や実務者にとって示唆に富んだ本を選び、「一度は読みたい観光研究書&実務書」として紹介させていただくことにしました。

選書にあたっては、当財団研究員の協力を得ながら、「旅の図書館」を中心とした選定メンバーにより、候補図書の収集・絞り込みなどの基礎作業を

行い、最終的に当財団(公益財団法人日本交通公社)として選定しました。また、選定の過程では、観光研究者であり幅広い観光分野の研究書・実務書に精通されている溝尾良隆氏(当財団評議員・立教大学名誉教授)にアドバイザーとしてご協力いただき、貴重なご助言をいただきました。次ページ以降に、当財団がお薦めする観光研究書&実務書100冊をご紹介します。

これらの本は、当財団が独自分類を行った観光研究資料の分類(T分類)に基づいて、各分類・テーマごとに選定したものです。

選書の背景や考え方、選書理由などは、選定後に開催した「講評の会」の記録の中で一部ご紹介しました。今後これらの図書をお読みになる際の参考にしていただければと思います。

なお、最後に、お薦めの100冊の他に、当財団研究員が執筆に関わった研究書、実務書についても併せて紹介させていただきました。当財団の50年にわたる調査研究活動の成果であり、今後の研究や実務の参考になると思いますので、併せてお読みいただけたらと思います。



【選定メンバー】

梅川智也 理事・観光政策研究部長
久保田美穂子 観光文化情報センター長・
主席研究員
大隅一志 旅の図書館副館長・主任研究員

【アドバイザー】

溝尾良隆氏 立教大学名誉教授

講評の会―選定にあたって



リストの選定基準とプロセス

久保田 今回、旅の図書館の蔵書をもとに、当財団が薦めする「一度は読みたい観光研究書&実務書100冊」を選定しました。リストの選定に携わった方々にお話を伺いたいと思います。

溝尾さんは当財団のOBであり、ご自宅にたくさん蔵書をお持ちで数多くの本を読んでもらえることから、選定メンバーに加わっていただきました。まず、今回のリスト選定の経緯を大隅さんからお話しいたしますか。

大隅 私は3年前に旅の図書館の仕事に関わるようになって、改めて自分の読書不足を痛感しました。その反省と、図書館を運営する立場から、多くの本にできるだけ目を通すようにしました。そうした中で、もっと知られるべきだと思ふ良書に多く出会い、それらの本のリストを作成すべきでは、という問題意識を持つようになりました。

そしてこのたび、旅の図書館が移転し新しい図書館に生まれ変わるこ

とになりました。これまでの蔵書に加え、当財団の調査研究部門が収集してきた統計や公開可能な調査研究報告書、実務書も公開することになり、蔵書数も大幅に増えました。

そうしたタイミングで、梅川さんからも「財団として将来に残したい本、若い観光研究者や学生に読んでほしい本を選ぶことが必要なのは」というお話をいただき、この機会に蔵書の中から良書を選んで、きちんとリストにしようと考えたわけです。

久保田 選定基準とプロセスについて、皆さんからお話を伺いたいと思います。もともと梅川さんが作ったリストがあったのですよね。

梅川 私は「旅の意味と可能性を探る研究会」(注1)という会の幹事長をしており、その会で観光に関する図書をきちんと選ぶ必要があるというところでリストを作り始めていました。今回はそのリストがベースになっていますね。

大隅 当館は観光研究資料について「T分類」(注2)という独自の分類を



行っていますが、今回のリストもこの分類に沿ってテーマごとを選んでいきます。5段階くらいのステップを踏んで図書をリストアップしていきましたが3回目くらいの選考段階でまだ1000冊くらいありました。そこから議論を重ねて、ようやくここまで絞り込むことができました。

久保田 読んでほしい対象を誰にするかというの、悩みましたね。

梅川 メインターゲットは、観光研究者と観光に関わる実務者というこ

大隅 それにプラスして観光に関心の高い一般の方も意識しています。ですから、観光研究の入門的な本も入っています。

それから、特定の国や地域を扱ったケースではなく、観光全般に共通するテーマで書かれた本をできるだけ選ぶようにしました。1人の著者につき1冊を原則とし、同じ著者で何冊も選ばないようにしています。また、当財団で発行している本は別に紹介するということで、基本的にこのリストからは外しました。

時代を映す本、時代を超える本

溝尾 まず古典的な基本がしっかりしている本から、読むべきでしょう。1930年(昭和5年)に、初めて「国際観光局」という観光の担当部署ができ、当時、今と同じくインバウンドを増やして、日本の経済を活性化させる必要があった。参考にした海外の研究書を国際観光局で翻訳したのです。

それが1934年(昭和9年)に

発行された『観光経済学講義』です。1941年(昭和16年)に発行された『観光事業論』も、やはり国際観光局が翻訳したものです。戦後間もない頃、やはり経済復興で日本の研究者が書いている観光事業論もこれらの本を参考にしています。1981年(昭和56年)に復刻された1930年発行の『観光学概論』と併せて、これらは今も観光を学ぶ基本と言えます。

大隅 観光の基礎3部作という位置づけですね。その中で我々としては、『観光学概論』を1冊リストに入れました。

溝尾 余暇論についても、定番とされる3冊があります。カイヨワの『遊びと人間』、デュマズディエの『余暇文明へ向かって』、ホイジンガの『ホモ・ルーデンス 人類文化と遊戯』ですね。この3冊は一連の流れをくむものであり、セットで読んでほしいと思います。

梅川 余暇に関しては、1989年(平成元年)に発行された荒井政治の『レジャーの社会経済史』も、イギリスの産業革命以降の余暇政策を

よくまとめています。

溝尾 シーグフリードの『現代―二十世紀文明の方向』も古い本ですが、第5章の「遊覧旅行の時代」は、現代の観光研究者にとって重要なことを言っていると思います。

梅川 当時は時代を席巻する名著だったけれど、今の時代には合わないという本もあります。しかし歴史的意義を考えて、リストに入れた本もいくつかありますね。

溝尾 ブーアスティンの『幻影の時代』マスコミが製造する事実』もそういう位置づけになりますね。

1964年(昭和39年)の発行です。最近注目されているデイーン・マツカネルの理論も、ブーアスティンを批判しているからです。そういう流れを知る上でも、『幻影の時代』は読む価値があります。

梅川 ラック計画研究所の『観光・レクリエーション計画論』も1975年(昭和50年)に発行された当時は、我々にとってバイブル的な存在でした。観光計画を作る時のいわば教科書のような存在でした。現代はもうそういう形で使われてはいませんが、

当時の観光計画のあり方などを知る意味で重要な本なので、若い方々には読んでほしいですね。

溝尾 書かれたのはずいぶん前ですが、現代に通用する本もあります。

1972年（昭和47年）に書かれた『観光農業への招待』などがそうですね。1960年代、70年代に盛んだった観光農業に取り組み時には、みんなこの本を参考にしていました。

六次産業化と最近よく言われていますが、観光と農業に関する本について、未だにこれを超えるものはないと思います。

大隅 事業・経営の方法論までとても丁寧に書かれていますので、今回リストに入れさせていただきました。久保田 そういう本の存在は今、改めて伝えたいですね。

都市論、民俗学…… テーマ別の選択

梅川 テーマ別で言うと、都市分野が内外で出版数が多く、リストが少し多くなってしまったのですが、1961年（昭和36年）発刊のジェ

ーン・ジェイコブスの『アメリカ大都市の死と生』は、一見観光とは関係なさそうですが、都市の魅力について4つの条件が挙げられていて、現代にも十分通じる部分があると思います。選定したものです。

溝尾 路地や古い建築物を残せとかね。都市問題は、地域をどうつくるかというベーシックな部分で観光に関わりませんから。

梅川 宇沢弘文の『社会的共通資本』も、コモンズとしての観光の重要性について指摘している本ですね。創造都市に関しては、チャールズ・ランドリーやリチャード・フロリダが有名ですが、比較的分かりやすく解説している佐々木雅幸の『創造都市への展望』を選定しました。

久保田 具体的な事例紹介の本も何冊か選びましたね。

大隅 『証言・町並み保存』がそうですね。角館や妻籠、石見銀山、竹富島などの町並み保存の経緯が保存活動に関わった地元のリダーを通して分かりやすく紹介されています。**溝尾** 『自由時間都市』もフランスの国家としての余暇・観光政策とラ

ングドック・ルシヨン地方のリゾート開発の事例を詳細に紹介している、素晴らしい本ですね。日本のリゾート法がなぜ問題になったかも、フランスの政策と比較するとよく分かります。

梅川 今まで、当財団の調査研究部門では民俗学や歴史の本が少なかったのですが、今後はこれらの分野もカバーしていく必要があるというところで、宮本常一と柳田国男の著書を選びました。それぞれ立ち位置が違いますが、観光にも関わりが深い民俗学の書籍です。

溝尾 佐野眞一が書いた『旅する巨人 宮本常一と渋沢敬三』もリストに入れましたね。宮本常一の地域に対する姿勢がよくわかります。

近年に出版された書籍の評価

大隅 過去10年ほどの間に出版された本については、評価についてかなり悩みましたね。本としてはもちろん、取り上げられているテーマも、数年経ってみたら残らないものかもしれない。しかし今読むべきだと思

われる本、現段階では読んでほしいという本もリストアップしています。**溝尾** 新しい本は選ぶのがとても難しいですね。相当悩まれたのではないかと思います。

梅川 現代アートは今、地域活性化に大きな影響を与えています。そのきっかけとなったのが越後妻有の「大地の芸術祭」です。先駆者である北川フラムの『美術は地域をひらく…大地の芸術祭10の思想』は、リストに入れるべきだと思いました。





産業遺産についての本は何冊ありますが、加藤康子の『産業遺産』を選びました。

溝尾 『復興ツーリズム・観光学からのメッセージ』という本をリストに入れましたが、これも今日的なテーマですね。

航空論の本についてはたくさん出版されていますが、「旅の図書館」の蔵書に限れば、『最新 航空事業論』がよく目配りされていると思います。もう一冊は『航空産業入門』

ですが、後者がオーソドックスな基礎編としたら、前者はいわば応用編で日本航空の経営悪化のことも書かれています。この2冊を読めば、航空論はカバーできるのではないかと思いますね。

久保田 宿泊の事例本としては『帝国ホテルのおもてなしの心』『俵屋の不思議』が選ばれています。特にこの2冊は溝尾さんから強く推薦いただきましたが、その理由は？

溝尾 特に『俵屋の不思議』は、京都の老舗旅館、俵屋で使われている畳や障子の糊や和紙、生け花などをどういう人に頼んでいるかを書いてあります。高野槇の浴槽を洗う、専門の「洗い屋」もいるそうです。京都の各分野の一流の職人たちによって江戸時代から続く旅館が成り立っており、旅館が、減びてしまう地域の大事な業種や仕事と深く結びついているのがよく分かります。

旅の図書館の今後に向けて

〜何を残すか

久保田 それでは最後に、旅の図書

館の新たなスタートにあたって溝尾さんから何かメッセージやアドバイスがありましたら、お願いします。

溝尾 蔵書は「捨て方」が難しいですね。廃棄のプロセスとフローチャートを明確にすることが大事だと思います。昭和30年より前に発行された本は残すとか、新刊本は3年間利用する人がいなかったら、全社員に公開の上、廃棄にするといったルールを決めるといいと思います。

大隅 ガイドブックなども、過去にさかのぼって研究に使えるものについて選定し、5年おきに保存するなどの収蔵方針を決めました。

溝尾 それはいいことだと思います。私は『新日本ガイド』というJTBのガイドブックシリーズを作るのに関わりましたが、初版と最終版をとってあります。

例えば初版は神戸の紹介ページがすごく少ないんですが、最終版では大幅に増えています。神戸観光のウェイトが歴史的にどう推移したかを見ることができません。四万十川も初版には全然出てこないのに、最終版では囲みで紹介されているなど、変化



選定された100冊は「旅の図書館」1階に展示されている

が読み取れます。観光の研究材料として使えるので、機械的に捨てるのではなく、何を残すかを考えるのは大事だと思います。

久保田 そうでないとい、その時々担当者の判断になってしまいますものね。ちゃんと廃棄のルールを作っておくことは大事ですね。

溝尾 もう一つは、利用者からのフィードバックを受け取る仕組みを作った方がいいのではないかと思いますね。何に興味があってその本を選んだのか、読んでみて良かったところ、期待外



溝尾良隆（みぞお よしたか）
立教大学名誉教授。理学博士。公益財団法人日本交通公社評議員。群馬県出身。東京教育大学理学部地理学専攻卒業。1964年株式会社日本交通公社外人旅行部に入社、1969年財団法人日本交通公社へ移籍。1989年立教大学社会学部観光学科教授。観光学部教授、観光学部長、日本観光研究学会会長を歴任。



梅川智也



久保田美穂子



大隅一志

れだったところなどを指摘してもらったため、付箋を付けて返してもらおうとか。いい部分はコピーしてファイリングするとかね。

久保田 本の内容について、利用者の評価などを聞くことも面白いかもしれないですね。とはいえ、そういうことをやっている専門図書館はあるのでしょうか。

大隅 以前は旅の図書館でも、利用者アンケートを実施して来館目的などを聞いていました。図書館の新しい運営方向が定まってからはそこまですてないです。

溝尾 普通の図書館はやらないうちか。

うけど、調査研究機関が運営する図書館だからこそできるのでは。これもまた調査の一つですよ。来館者がどんなことに興味があるか、知りたいじゃないですか。

今回作られたリストに関しても、来館者から「この本が入っていないけど、入れたほうがいい」とか「この本はなぜ入れたのか」などの意見や質問があれば、聞き取ってストックしておく、再検討材料にして、よりよいものにしていけばいいのではないのでしょうか。

久保田 おっしゃる通り、このリストは今後とも充実させていきたいと思

います。今日は溝尾さんからいろいろと貴重なご意見をいただきました。どうもありがとうございます。

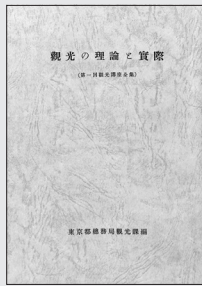
(注1) 旅の意味と可能性を探る研究会：
<http://www.trip.t.u-tokyo.ac.jp/tabikenkyukai/home.html>

(注2) T分類：観光研究資料に対する旅の図書館の独自分類。Tourismの頭文字からT分類とした。

(※) 著者の敬称は省略しました。



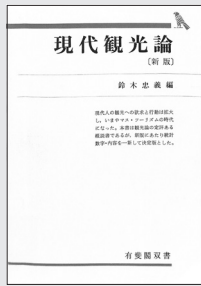
一度は読みたい観光研究書&実務書100冊



観光の理論と実際
(第一回観光講座全集)
東京都総務局観光課編
1949年
東京都総務局観光課



観光学概論(復刻版)
A・ホルマン 著
国際観光局 訳
1981年(初版は1930年)
橘書院

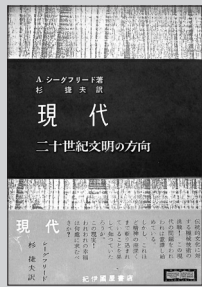
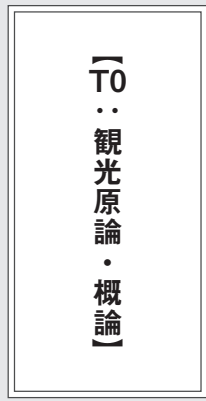


現代観光論(新版)
鈴木忠義 編
1984年(初版は1974年)
有斐閣

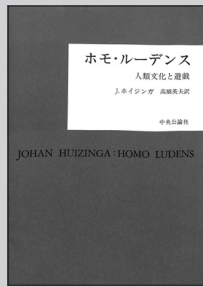


観光学
基本と実践(改訂新版)
溝尾良隆 著
2015年(初版は2003年)
古今書院

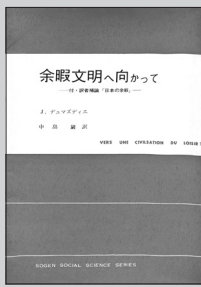
言論・概論



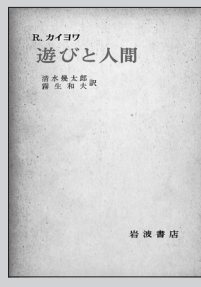
現代 二十世紀文明の方向
A・シーグフリード 著
杉 捷夫 訳
1956年
紀伊國屋書店



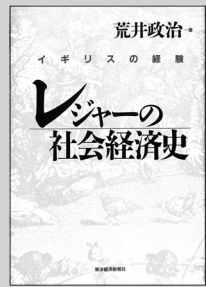
ホモ・ルーデンス
人類文化と遊戯
J・ホイジンガ 著 高橋英夫 訳
1963年(写真は1971年
発行の普及版)/中央公論社



余暇文明へ向かって
J・デュマスディエ 著
中島 巖 訳
1972年
東京創元社

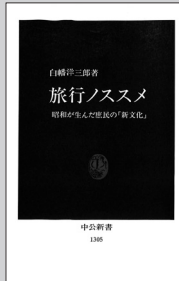


遊びと人間
R・カイヨワ 著
清水幾太郎・霧生和夫 訳
1970年
岩波書店

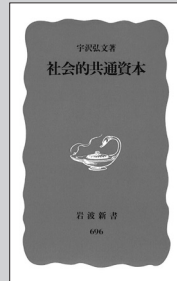


レジャーの社会経済史
荒井政治 著
1989年
東洋経済新報社

余暇・旅・観光



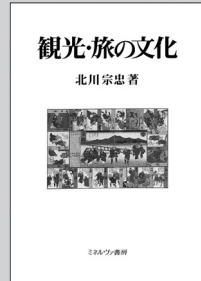
旅行ノススメ
白幡洋三郎 著
1996年
中央公論社



社会的共通資本
宇沢弘文 著
2000年
岩波書店



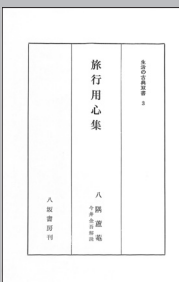
レジャーの誕生
アラン・コルバン 著
渡辺響子 訳
2000年 藤原書店



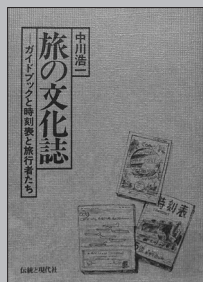
観光・旅の文化
北川宗忠 著
2002年
ミネルヴァ書房



観光のまなざし(増補改訂版)
ジョン・アーリ/ヨナス・ラースン 著 加太宏邦 訳
2014年(初版は1995年)
法政大学出版局



旅行用心集
八隅蘆菴 著
今井金吾 解説
1972年(初版は1810年)
八坂書房



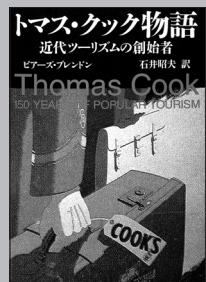
旅の文化誌—ガイドブックと
時刻表と旅行者たち
中川浩一 著
1979年
伝統と現代社



余暇の戦後史
石川弘義 編著
1979年
東京書籍



グランド・ツアー
良き時代の良き旅
本城靖久 著
1983年
中央公論社



トマス・クック物語
ピアース・ブレンドン 著
石井昭夫 訳
1995年
中央公論社

歴史

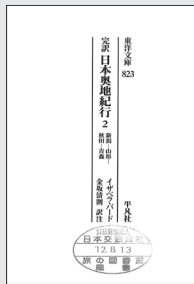
一度は読みたい観光研究書&実務書100冊



旅する巨人
宮本常一と沢沢敬三
佐野眞一 著
1996年
文藝春秋

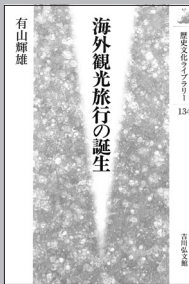


星の巡礼
パウロ・コエーリョ 著
山川紘矢・山川亜希子 訳
1998年
角川書店 (初版は1995年)



完訳 日本奥地紀行2
新潟―山形―秋田―青森
イザベラ・バード 著
金坂清則 訳注
2012年 (初版は1880年) / 平凡社

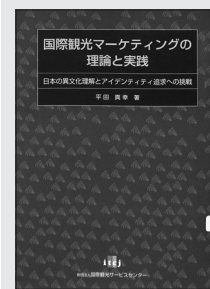
観光と文芸 (文学)



海外観光旅行の誕生
有山輝雄 著
2002年
吉川弘文館



旅の根源史
田村正紀 著
2013年
千倉書房



国際観光マーケティングの
理論と実践
平田真幸 著
2006年
国際観光サービスセンター

インバウンド

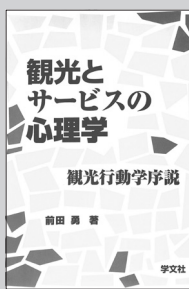


海水浴と日本人
畔柳昭雄 著
2010年
中央公論新社

活動 (自然)



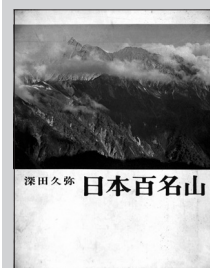
幻影の時代
マスコミが製造する事実
ダニエルJ・ブーアスティン 著
星野郁美・後藤和彦 訳
1964年 (写真は1974年版) / 東京創元社



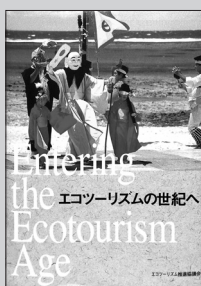
観光とサービスの心理学
前田勇 著
1995年
学文社

行動・心理

「T1・T2」観光者・
観光活動



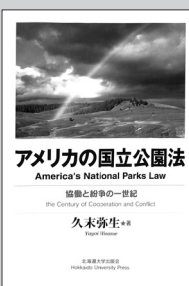
日本百名山
深田久弥 著
1964年
新潮社



エコツーリズムの世紀へ
エコツーリズム推進協議会 著
1999年
エコツーリズム推進協議会



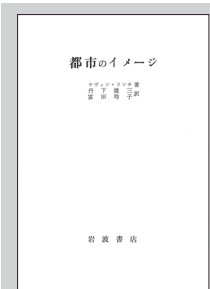
再生する国立公園
瀬田信哉 著
2009年
アサヒビール



アメリカの国立公園法
久末弥生 著
2011年
北海道大学出版会

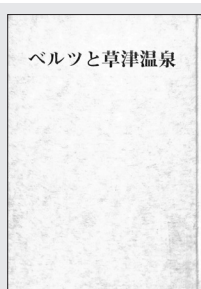
自然観光地

「T3・T4」観光地・
観光資源



都市のイメージ
ケヴィン・リンチ 著
丹下健三・富田玲子 訳
1968年
岩波書店

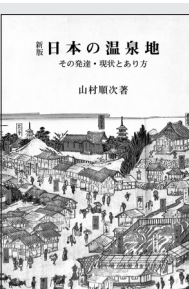
都市



ベルトと草津温泉
市川善三郎 著
1980年
あさを社

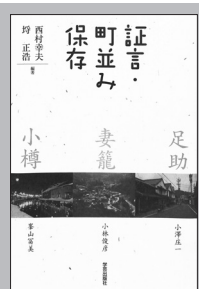


世界温泉文化史
ウラディミール・クリチェク 著
種村季弘・高木万里子 訳
1994年
国文社



新版・日本の温泉地
山村順次 著
1998年 (初版は1987年)
日本温泉協会

温泉地



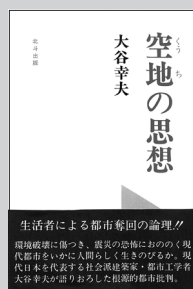
証言・町並み保存
西村幸夫・坪正浩 編著
2007年
学芸出版社

歴史観光地

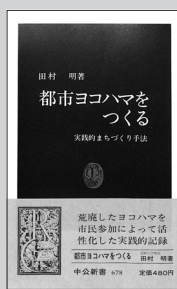
一度は読みたい観光研究書&実務書100冊



街並みの美学
芦原義信 著
1979年 (写真は2001年版)
岩波書店



空地の思想
大谷幸夫 著
1979年
北斗出版



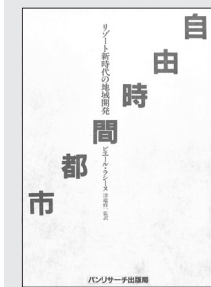
都市ヨコハマをつくる
田村明 著
1983年
中央公論社



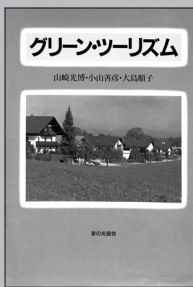
都市再生のバラダイム
—J・W・ラウスの軌跡—
窪田陽一 編・著
1988年
PARCO出版局



都市保全計画
西村幸夫 著
2004年
東京大学出版会



自由時間都市
ビエール・ラシーヌ 著
津端修一 監訳
1987年
パンリサーチンスティテュート

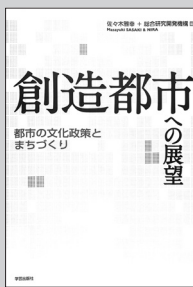


グリーン・ツーリズム
山崎光博・小山善彦・
大島順子 著
1993年
家の光協会

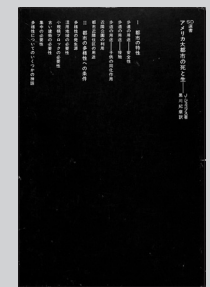


日本の田園風景
山森芳郎 著
2012年
古今書院

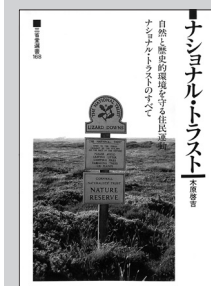
農山漁村



創造都市への展望
佐々木雅幸・
総合研究開発機構 編著
2007年
学芸出版社



アメリカ大都市の死と生
J・ジェイコブズ 著
黒川紀章 訳
1977年
鹿島出版会



ナショナル・トラスト
木原啓吉 著
1992年 (写真は1998年版)
三省堂

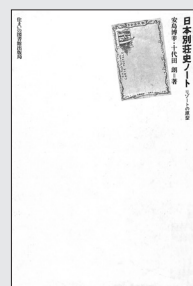
観光資源



軽井沢物語
宮原安春 著
1991年
講談社



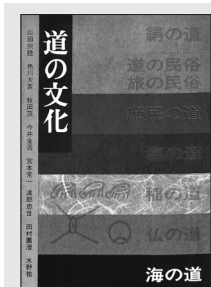
東京都湯沢町
新潟日報報道部 著
1990年
潮出版社



日本別荘史ノート
安島博幸・十代田朗 著
1991年
住まいの図書館出版局



近代日本の国際リゾート
砂本文彦 著
2008年
青弓社

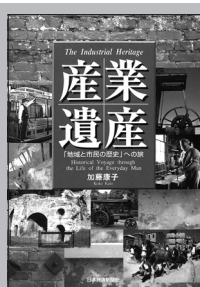


道の文化
山田宗睦 著
1979年
講談社

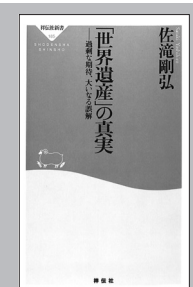


道の文化史
シュライバー 著
関楠生 訳
1962年
岩波書店

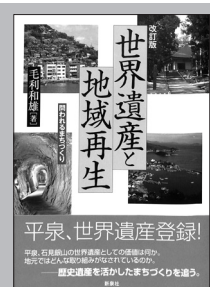
インフラ (土木)



産業遺産
加藤康子 著
1999年
日本経済新聞社



「世界遺産」の真実
佐滝剛弘 著
2009年
祥伝社



世界遺産と地域再生 (改訂版)
毛利和雄 著
2011年 (初版は2008年)
新泉社

世界遺産・産業遺産

一度は読みたい観光研究書&実務書100冊



日本交通史
見玉幸多 編
1992年
吉川弘文館

運輸・交通

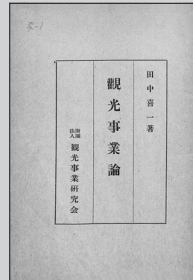


旅行ビジネス入門 (第3版)
トラベルジャーナル 編
2002年
トラベルジャーナル



旅行業の扉 JTB100年の
インベーション
高橋一夫 編著
2013年
碩学舎

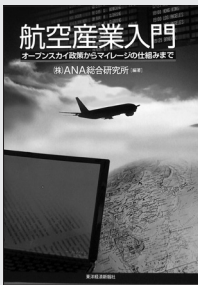
旅行業



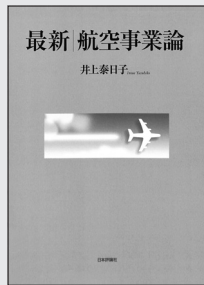
観光事業論
田中喜一 著
1950年
観光事業研究会

概論・総論

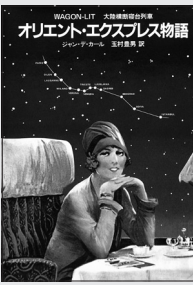
「T5」観光産業



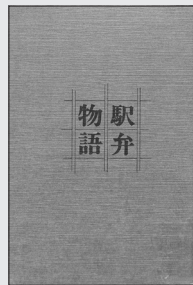
航空産業入門
ANA総合研究所 編著
2008年
東洋経済新報社



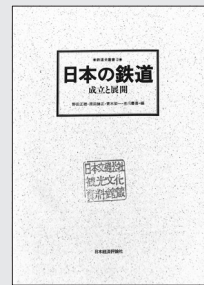
最新 航空事業論
井上泰日子 著
2013年
日本評論社



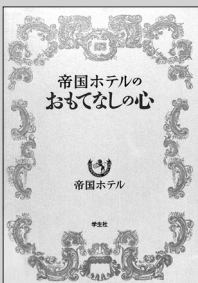
オリент・エクスプレス物語
ジャン・デ・カール 著
玉村豊男 訳
1982年
中央公論社



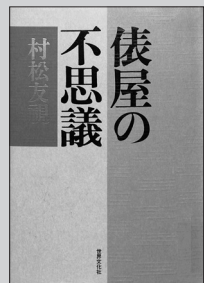
駅弁物語
瓜生忠夫 著
1979年
家の光協会



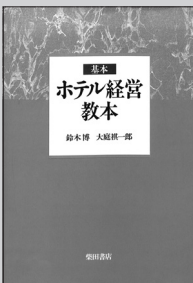
日本の鉄道
野田正穂他 編
1986年
日本経済評論社



帝国ホテルのおもてなしの心
帝国ホテル 編
1995年
学生社



俵屋の不思議
村松友視 著
1999年
世界文化社



基本 ホテル経営教本
鈴木博・大庭祺一郎 著
1999年
柴田書店

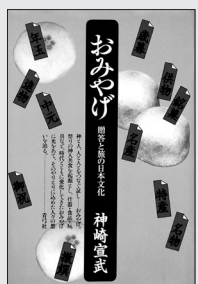


世界最高のホテル
プラザでの10年間
奥谷啓介 著
2007年
小学館

宿泊

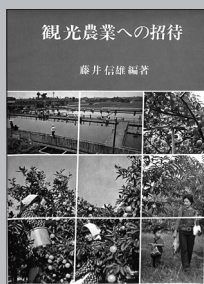


豪華客船の文化史
野間恒 著
1993年
NTT出版

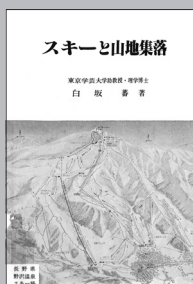


おみやげ
贈答と旅の日本文化
神崎宣武 著
1997年
青弓社

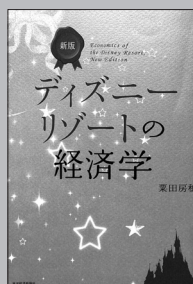
飲食・土産



観光農業への招待
藤井信雄 編著
1972年
富民協会

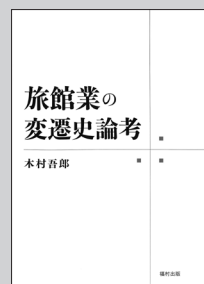


スキーと山地集落
白坂蕃 著
1986年
明玄書房



ディズニーリゾートの経済学
(新版)
粟田房穂 著
2013年 (初版は2001年)
東洋経済新報社

観光レク



旅館業の変遷史論考
木村吾郎 著
2010年
福村出版

一度は読みたい観光研究書&実務書100冊

景観

日本風景論 (新装版)
志賀重昂 著
2014年
講談社

観光・レクリエーション
計画論
ラック計画研究所 編
1975年
技報堂

観光計画の手法
日本観光協会 編
1976年
日本観光協会

観光・リゾート計画論
前田豪 著
1992年
総合ユニコム

計画

〔T6〕観光計画・開発

観光政策

観光政策・制度入門
寺前秀一 著
2006年
ぎょうせい

土木工学大系13 景観論
土木工学大系編集委員会 編
1977年
彰国社

日本の景観
樋口忠彦 著
1981年
春秋社

風景学入門
中村良夫 著
1982年
中央公論社

計画

〔T7〕観光政策

国際観光政策

貧困克服のためのツーリズム
高寺奎一郎 著
2004年
古今書院

日本列島改造論
田中角栄 著
1972年
日刊工業新聞社

観光行政百年と
観光政策審議会三十年の歩み
1980年
ぎょうせい

国土計画の変遷
川上征雄 著
2008年
鹿島出版会

計画

観光経営

観光経済学の基礎
河村誠治 著
2000年
九州大学出版会

観光の経済分析
小沢健市 著
1992年
文化書房博文社

Kotler
コトラーのホスピタリティ&
ツーリズム・マーケティング (第3版)
2003年
ピアソン・エデュケーション

ホスピタリティ
マネジメント
立教大学観光研究所 編
2008年
立教大学観光研究所

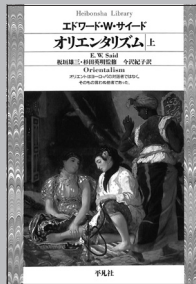
観光経営

〔T8〕観光経営・経済

一度は読みたい観光研究書&実務書100冊



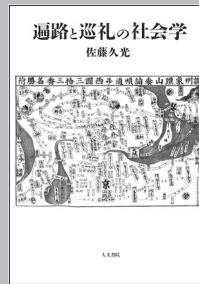
観光の二十世紀
石森秀三 編
1997年
ドメス出版



オリエンタリズム
エドワード・W・サイド著 板垣雄三・
杉田英明 監修 今沢紀子 訳
1993年 (初版は1896年)
平凡社



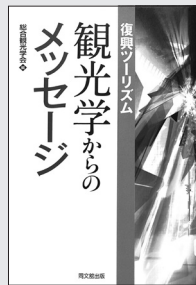
観光人類学
山下晋司 編
1996年
新曜社



遍路と巡礼の社会学
佐藤久光 著
2004年
人文書院

観光と地域社会

「T9」観光と社会・
文化・環境



復興ツーリズム
観光学からのメッセージ
総合観光学会 編著
2013年
同文館出版

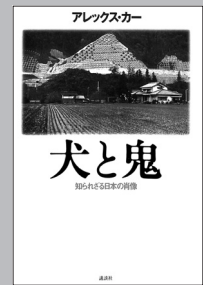
災害と観光復興



忘れられた日本人
宮本常一 著
1984年 (初版は1960年)
岩波書店



遠野物語
柳田国男 著
2012年など (発表は1910年)
無明舎出版など



犬と鬼
アレックス・カー 著
2002年
講談社



当財団研究員が執筆に関わった研究書・実務書

分類(1次)	分類(2次)	タイトル	著者	出版社	出版年
【T0】観光原論・概論					
T0	原論・概論	観光読本 [第2版]	(財)日本交通公社	東洋経済新報社	2004
T0	原論・概論	観光読本	(財)日本交通公社	東洋経済新報社	1994
T0	原論・概論	現代観光用語事典	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1984
T0	原論・概論	観光の現状と課題	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1979
T0	原論・概論	観光事典	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1973
T0	原論・概論	旅行年報	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1981-
T0	原論・概論	シンポジウム採録集	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2008-2011
T0	観光の概念	余暇社会の旅	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1974
T0	観光研究	自主研究レポート	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2003-
【T1】観光者・観光活動(I)					
【T2】観光者・観光活動(II)					
T2	日本人の観光	旅行者動向	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2000-2013
T2	日本人の観光	Market Insight 日本人海外旅行市場の動向(日本語版)	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2006-2013
T2	日本人の観光	Market Insight 日本人海外旅行市場の動向(英語版)	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2009-2013
T2	日本人の観光	旅行・観光地動向ファイル	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2000-2003
T2	日本人の観光	旅行動向季報	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1978-1985
T2	日本人の観光	旅行の動向	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1974-1978
T2	日本人の観光	旅行の見通し	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1988-2007
T2	日本人の観光	旅行の現状と見通し	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1978-1980
T2	日本人の観光	JTBレポート	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1989-2001
T2	日本人の観光	JTB宿泊白書	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1998-2001
T2	訪日外国人	地域の"とがった"に学ぶ インバウンド推進のツボ2	(財)日本交通公社	(公財)日本交通公社	2012
T2	訪日外国人	地域の"とがった"に学ぶ インバウンド推進のツボ	(財)日本交通公社	(公財)日本交通公社	2011
【T3】観光地・観光資源(I)					
T3	自然観光地	自然保護とサステイナブル・ツーリズム 実践的ガイドライン	小林英俊 (財)日本交通公社 監訳	平凡社	2005
T3	自然観光地	エコツーリズム さあ、はじめよう!	環境省・(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2004
T3	自然観光地	エコツーリズム教本 先進国オーストラリアに学ぶ実践ガイド	小林英俊 (財)日本交通公社 監訳	平凡社	2002
T3	温泉地	温泉地再生 地域の知恵が魅力を紡ぐ	久保田美穂子 (財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2008
T3	温泉地	日本の温泉地を元気にする「温泉まちづくりの課題と解決策」提言集	温泉まちづくり研究会 公益財団法人日本交通公社	温泉まちづくり 研究会	2011
T3	温泉地	温泉まちづくり 温泉まちづくり研究会ディスカッション記録	温泉まちづくり研究会 公益財団法人日本交通公社	温泉まちづくり 研究会	2011-
T3	都市	都市観光でまちづくり	都市観光でまちづくり編集委員会編	学芸出版社	2003
T3	農山漁村	魅せる農村景観 デザイン手法と観光活用へのヒント	佐藤誠監修・(財)日本交通公社編	ぎょうせい	2004
【T4】観光地・観光資源(II)					
T4	観光資源	美しき日本 旅の風光	(公財)日本交通公社 監修	(公財)日本交通公社	2014
T4	観光資源	美しき日本 いちどは訪れたい日本の観光資源	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1999
T4	世界遺産・産業遺産	産業観光への取り組み 基本的考え方と国内外主要事例の紹介	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2007
【T5】観光産業					
T5	旅行業	旅行産業論	立教大学観光学部旅行産業研究会 編著	(公財)日本交通公社	2016
T5	旅行業	THE PATH TO FREEDOM JAPANESE HELP FOR JEWISH REFUGEES	(財)日本交通公社 (伊藤明)	(財)日本交通公社	2002
T5	概論・総論	観光ビジネスの手引き 地域文化活性化の業務指針	(財)日本交通公社	東洋経済新報社	1986
T5	旅行業	旅行業界	皆川 慎吾 他編著	(財)日本交通公社	1978初版
T5	宿泊業	21世紀旅館経営の課題 10年後を生き残るために	(財)日本交通公社	21世紀の旅館ホテルを 考える研究会	2002
T5	ガイド業	魅力ある自然ガイドツアーづくりの手引き	国土交通省総合政策局監修	(財)日本交通公社	2005
T5	ガイド業	実践講座 インタープリテーション	国土交通省観光部監修	(財)日本交通公社	2002
T5	ガイド業	自然ガイドのためのおもしろヒントブック	国土交通省観光部監修	(財)日本交通公社	2002
【T6】観光計画・開発					
T6	観光地づくり	観光実践講座講義録	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2007-2013
T6	観光地づくり	観光まちづくり まち自慢からはじまる地域マネジメント	西村幸夫 ((財)日本交通公社編集協力)	学芸出版社	2009
【T7】観光政策					
【T8】観光経営・経済					
T8	観光地経営	観光地経営の視点と実践	(公財)日本交通公社	丸善出版	2013
T8	観光経済	観光経済レポート	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	2003-2008
【T9】観光と社会・文化・環境					
T9	観光と地域社会	コミュニティ・ベースド・ツーリズム研究 世界の実践事例に学ぶ成功の鍵	小林英俊・緒川弘孝・ 山村高淑・石森秀三	(財)日本交通公社	2010
【その他】					
T0	原論・概論	観光学の基礎	溝尾良隆編著 日本観光研究学会監修	原書房	2009
【調査報告書】					
		観光産業の経済効果 ー小豆島における理論的実証的研究ー	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1966
		旅行の心理分析 ー第1次報告ー	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1968
		地中海クラブ	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1970
		観光地の評価手法	(財)日本交通公社	(財)日本交通公社	1971

当財団研究員が執筆に関わった研究書・実務書20冊

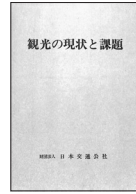
観光読本「第2版」 発行：東洋経済新報社 2004年
観光全般について基本的な事項を網羅した概論と、当財団研究員による分析・提言をまとめた書籍。初めて観光分野に従事している自治体の担当者や、旅行業界の方、観光を学ぶ学生などの入門書。

観光の現状と課題 1979年
改組15周年事業の一環として、当財団が実施してきた調査研究の蓄積を世に問うことを目的に、我が国における観光の現状と抱える課題についてまとめた冊。

余暇社会の旅 1974年
改組10周年事業の一環として非公刊で開催されたシンポジウムの内容を取録。鈴木忠義（当時当財団専門委員）をコーディネーターとして、磯崎新、茅陽、小松左京、富永健一、西丸震哉、米山俊直といった各界新進気鋭の論者が観光について論じた。

自然保護とサステイナブル・ツーリズム 2005年
IUCN（国際自然保護連合）の「Sustainable Tourism in Protected Areas」の翻訳書。国立公園などの自然保護地域におけるツーリズムと資源保全のあり方、利用と保全をめぐるサステイナビリティをどう実現させていくか、各国の先進事例に学び、具体的なガイドラインを示す。

エコツーリズム さあ、はじめよう！ 2004年
エコツーリズムとは何か、推進の手順と重要なポイントとなるルールとガイドラインを、そして地域資源の保全と持続的利用を可能とする資源管理のあり方などをまとめた手引書。2003年に設置された「エコツーリズム推進会議」（議長：小池百合子環境大臣）での議論を環境省と当財団が編集。



エコツーリズム教本
先進国オーストラリアに学ぶ実践ガイド 2002年
スティーブ・トーマス氏による『ECO TOURISM A PRACTICAL GUIDE FOR RURAL COMMUNITIES』（1996）の翻訳書。オーストラリアやヨーロッパで実践が行われている実践例や研究成果を併用しながら、エコツーリズムの持ついろいろな側面を分かりやすく網羅的に解説。

温泉地再生 地域の知恵が魅力を紡ぐ
学芸出版社 2008年
温泉ブームの中にありながら苦戦が続く温泉地が、どのようにすれば再び憧れの地になるのか、現場で活性化に取り組み人々の目線から探り、具体的な行動のためのヒントや知恵をまとめた冊。

都市観光でまちづくり 学芸出版社 2003年
「都市観光を創る会」での議論をまとめた、都市観光推進の入門書。都市観光成功の秘訣である「住んでよし、訪れてよしのまちづくり」に向けた取り組み事例も紹介。

魅せる農村景観 デザイン手法と観光活用へのヒント
ぎょうせい 2004年
農村景観を観光活用するための基本的な考え方を、全国の事例を紹介しながら分かりやすくまとめた手引書。

産業観光への取り組み
基本的考え方と国内外主要事例の紹介 2007年
全国の地域活性化と観光に関わる人々から注目されている「産業観光」への取り組みと、着地型旅行商品（地域の側でつくられる旅行商品）について、産業観光先進地（国内20事例、海外3事例）を例に、多くの写真とともに分かりやすく体系的に解説。今後のあり方、取り組み方について紹介した本。



旅行産業論 2016年
立教大学（株）JTB総合研究所、当財団を中心構成される「立教大学観光学部旅行産業研究会」その研究会が、立教大学の講義内容をベースとして旅行業の体系的な整理を行い、書籍化したもの。実務的内容にとどまらず、旅行業全体を学術的かつ俯瞰的視点から解説。

実践講座 インタープリテーション 楽しいツアーづくりのためのプログラム開発と伝えるテクニック 2002年
インタープリテーション（自然ガイド）実践者向けの参考書。楽しいツアーづくりのためのプログラム開発方法やメッセージを伝えるテクニックを豊富な事例とともに解説。ヒントブックは自然ガイドツアー・プログラムづくりのための素材集。

観光まちづくり まち自慢からはじまる地域マネジメント
学芸出版社 2009年
東京大学西村研究室（西村幸夫教授）と財団法人日本交通公社が共同で執筆。まちづくりから見た観光、観光から見たまちづくりの双方の視点から、具体的な事例を踏まえて「観光まちづくり」とは何かを解説する。

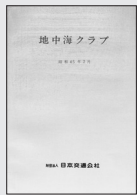
観光地経営の視点と実践 丸善出版 2013年
調査研究機関化（改組）50周年事業の一環として刊行。これまで培ってきた知見を「観光地経営」という視点で整理し、観光地づくりの研究者あるいは実践者の方々のバイブルとなることを意図した冊。

コミュニティ・ベスト・ツーリズム事例研究 2010年
観光を真に地域にとつづらすものとしていくためには、さまざまな課題が存在している。地域コミュニティが主体的にどのように観光と関わっていくことができるか、という観点から、中国貴州省、ブータン王国、ニュージーランドの3つの国・地域の研究をまとめた一冊。



観光地の評価手法 1971年
正しい保護、開発の促進を目的に、観光資源、観光地を評価する研究と手法を紹介。世に問うた報告書。問題の所在、方法論、結果と考察、モデルの適用の4章で構成。

地中海クラブ 1970年
地中海クラブが1968年12月に刊行した、Club Med culture を抄訳したもの。二日のうち、わずかな時間しか過ぎない宿泊施設は簡略にして、スポーツや文化活動を充実させ食事の質量ともに豊かにする」という方針が成功した、新しいパカンス形式を垣間見る。



観光地の経済効果
小豆島における理論的実証的研究 1966年
小豆島をモデルに行った、産業観光の投資効果および消費効果に関する理論的・実証的研究の調査報告書。産業観光の経済効果に関するマクロ分析、ミクロ分析、そして実態分析の3部で構成。

旅行の心理分析 第1次報告 1967年
旅行の心理に関する研究結果の中間報告。旅行の好き嫌い、旅行に出かける動機、観光地のイメージなどについて、若年層を対象に質問紙方式調査を行い、心理学的分析および推測統計学的検定処理の作業を行ったもの。

美しい日本 旅の風光 発行：JTBパブリッシング
当財団が長年取り組んできた「日本における観光資源の評価をもとに監修した写真集。1999年発行の「美しい日本」いちどは訪れた日本の観光資源」を抜本的に改訂。英語訳付。

報告書